

季節風

2016.2.14

No.42

山鹿市立鹿北中学校

文責：郡 一路

「小さな親切」運動 実践発表会

六日（土）、鹿北市民セン

ターにて、実践発表会が開催

されました。表彰に引き続

き、小・中学生による作文発表がありまして。中学校からは、大淵開迪君が「兄の帰宅」、古川祥大君が「僕のひいばあちゃん」との題で発表をしました。

大淵君は、お兄さんに対する自分の気持ちの変化を見つめて、あこがれの存在であることに気づいていったことを、古川君は、家族の日常の風景を通して「女性には家族を笑わせ、男性は家族を守る」という古川家の家族のあり方を誇りに感じていることを発表してくれました。二人の発表は、参加した人たちの心をほんわかと温かくしてくれました。

「小さな親切」作文
最優秀賞
松本 久瑠美さん
「仲を深めて」

優秀賞

伊藤 舞桜さん
「外れたチエーン」

塚本 綺華さん
「みんなの優しさありがとう」

入選

福永 杏菜さん
「ありがとう」

島北 大都君
「母の親切」

富安 快斗君
「ぼくがした小さな親切」

「家庭の日」作文

優秀賞

大淵 開迪君
「兄の帰宅」

入選

古川 祥大君
「僕のひいばあちゃん」

伊藤 俊祐君
「送迎の車の中」

大坂 朱音さん
「家族」

増永 綾香さん
「やっぱり大切な妹」

石川 竜童君
「アルバムから考えたこと」

心温まるできごと

先日、給食室の西澤先生が、「とてもうれしいことがあったので、話しに来ました」と笑顔で中学校に来ました。話を聞いてみると、2年生が食器などを返却に来たとき、男子生徒の一人が「気をつけ」、「礼」、「おいしかったです!」と号令をかけてくれたとのこと。さらに、もう1回、「気をつけ」、「礼」、「また、作ってください」と続けて言ってくれたとのこと。

『ごちそうさまでした』と言ってくれるだけでもうれしいのに、ちょっと言葉を変えて思いを伝えてくれたことが、とてもうれしく、心が温かくなりました。」と西澤先生が笑顔で話をしてくれました。

何気ない「一言」が人の心を温かくしてくれる。その「一言」が言えるような人になりたいと思いました。私たちの普段の生活の中でも、この何気ない「一言」を伝える機会がきっとあると思います。そんな時は、勇気を出して思いを伝えたいものです。

やまがわくわく英語

未来の翼

親切は行動が大切。小さな親切の積み重ねが、鹿北を創る力となる。子どもの成長を感じている。鹿北は親切の先進地域、この言葉が印象に残りました。

オーストラリアへの研修に行くことができる「未来の翼」

の第一次審査の結果が発表されました。応募総数一三三名

(鹿北中からは七十名以上の人が応募)の中から十二名の人

が選ばれました。

本校からは、

原田 芳希君 (三年)

島北 千代音さん (一年)

の二人が一次審査を突破しました。おめでとうございます。

二次審査でもベストを尽くしてほしいと思います。応募した人の約七十%が鹿北中という

のはすごいことです。



＝「小さな親切」八か条＝

- 一 朝夕のあいさつをかならずしましょう。
- 二 はっきりとした声で返事をしましょう。
- 三 他人からの親切を心からうけ入れ、「ありがとう」といしましょう。
- 四 人から「ありがとう」と言われたら、「どういたしまして」といしましょう。
- 五 紙くすなどをやたらにすてないようにしましょう。
- 六 電車やバスの中で、お年寄りや赤ちゃんをだいたおかあさんには席をゆずりましょう。
- 七 人が困っているのを見たら手つだつてあげましょう。
- 八 他人のめいわくになることはやめましょう。